

時候の挨拶

❖時候の挨拶例

手紙では、「拝啓」などの頭語のあとに季節の挨拶を続ける。相手と同じ季節を共有しているということを示し、親しみの心を表すものである。

一月 寒、やがいちだんと厳しくなってまいりました。

二月 梅のつぼみのふくらむ頃となりました。

三月 各地から花の便りが伝わる頃となりました。

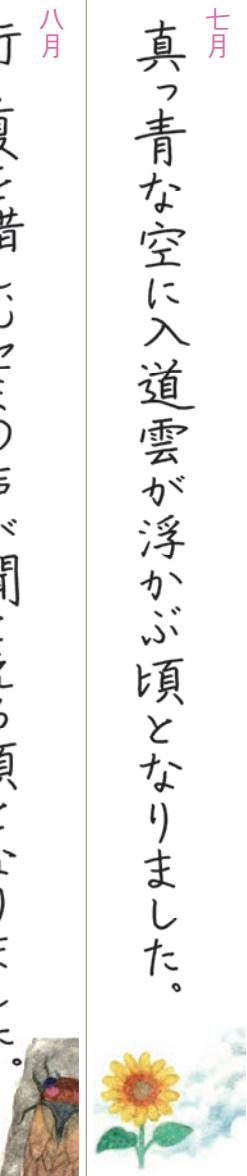
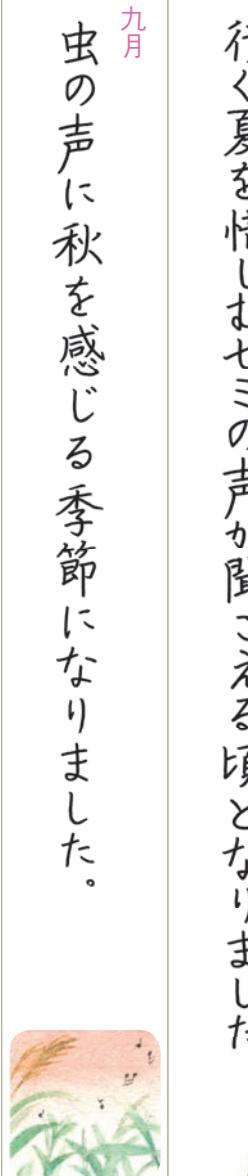
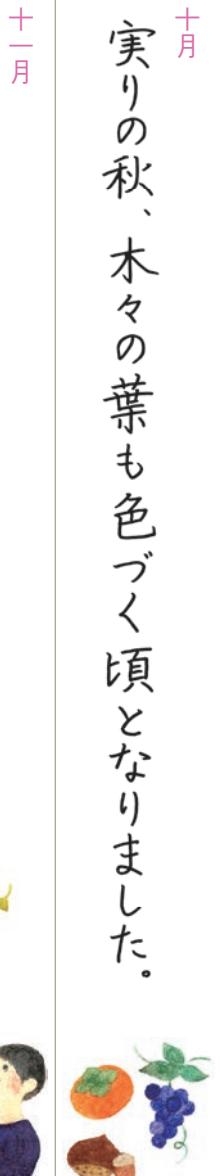
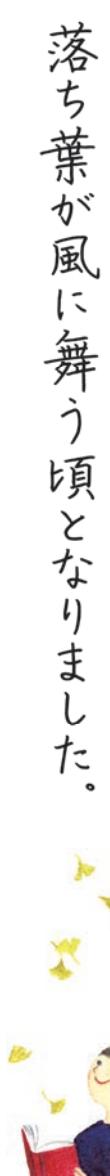
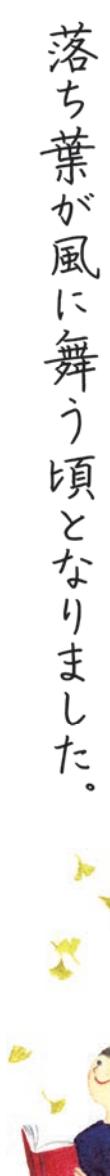
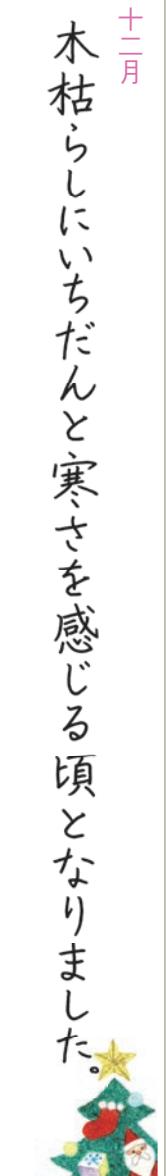
四月 優しい春風がほおをくすぐる頃となりました。

五月 さわやかな風の渡る頃となりました。

六月 あじさいの花が咲き競う頃となりました。

❖頭語と結語

頭語と結語は、組み合わせが決まっている。

七月	真っ青な空に入道雲が浮かぶ頃となりました。	
八月	行く夏を惜しむセミの声が聞こえる頃となりました。	
九月	虫の声に秋を感じる季節になりました。	
十月	実りの秋、木々の葉も色づく頃となりました。	
十一月	落ち葉が風に舞う頃となりました。	
十二月	木枯らしにいちだんと寒さを感じる頃となりました。	

歳末・新年	冬	秋	夏	春
初春の候	歲末の候	初秋の候	残暑の候	早春の候
師走の候	嚴寒の候	晚秋の候	梅雨の候	陽春の候
				
さいまつ	冬	秋	夏	春

季節の移ろいは、その年ごとに、また地域ごとに異なる。

書く人が今感じている「季節」を表現しよう。

- ・「前略」は時候の挨拶や安否伺いなどを省き、すぐ用件を書くときに使う。
- ・もらった手紙への返信の場合、「拝復」と「敬具」を使う。